

2017 年度第 3 回理事会議事録

期 日：2018 年 3 月 11 日（日）12:50～14:50

場 所：公益社団法人 日本放射線技術学会 東京事務所

出席者：内田 幸司，大野 誠一郎，菊地 克彦，高橋 光幸，土井 司，沼野 智一，畑 純一，
原田 雅史，山崎 良，錦 成郎

委 任：江田 哲男，小倉 明夫，笠井 治昌，小林 靖宏，熊代 正行，後藤 政実，寺田 理希，
中島 康雄 出席 10 人，委任 8 人

報告事項

1. 第 13 回磁気共鳴専門技術者認定試験作成委員会

期 日：2017 年 12 月 17 日（日）12:50～17:10

場 所：公益社団法人 日本放射線技術学会事務局 大会議室

出 席：上山 毅，内田幸司，大野誠一郎，小倉明夫，笠井治昌，京谷勉輔，土井 司，
山谷 裕哉 [8 人]

委 任：原田雅史，小林靖宏，石本 剛，高津安男 [4 人]

内 容：各委員が作成した以下の試験問題案について検討した。

石本 剛（姫路循環器病センター）：応用技術

上山 毅（東京大学医学部附属病院）：アーチファクト・読影技術

内田 幸司（えだクリニック）：磁気共鳴基礎物理

大野 誠一郎（岡山大学病院）：パルスシーケンス・読影技術

小倉 明夫（群馬県立県民健康科学大学）：性能評価

笠井 治昌（名古屋市立大学医学部附属病院）：撮像技術

京谷 勉輔（神戸大学医学部附属病院）撮像技術

小林 靖宏（日立製作所）：保守点検，精度管理，安全性

高津 安男（大阪赤十字病院）：臨床応用・読影技術

土井 司（高清会 高井病院）：MRI 検査の安全管理

原田 雅史（徳島大学）：読影技術

山谷 裕哉（奈良県立医科大学附属病院）MRI 検査に関わる解剖

2. 第 13 回磁気共鳴専門技術者認定試験準備委員会

期 日：2018 年 2 月 17 日（土）17:00～20:00

場 所：首都大学東京荒川キャンパス_講堂・186 教室

出 席：内田幸司，上山 毅，菊地克彦，鈴木儀典，高橋光幸，土井 司，沼野智一，山崎 良

内 容：(1) 試験会場の確認 (2) 座席番号の貼付 [8 人]

(3) 受付と案内板の準備：受付は講堂入口で全員まとめて行う。

(4) 講演時の備品動作チェック

(5) 試験問題の落丁などの確認と配布用に分配 (6) 保管

3. 第13回磁気共鳴専門技術者認定試験実行委員会

期 日：2018年2月18日（日）7:45～17:00

場 所：首都大学東京荒川キャンパス_講堂・186教室・182教室

出 席：上山 毅，内田幸司，江田哲男，小倉明夫，北川 久，菊地克彦，小林智哉，
鈴木儀典，高橋光幸，土井 司，沼野智一，畑 純一，山崎 良 [13人]

講 師：清水 徹，土橋 俊男 [2人]

内 容

(1) 第13回磁気共鳴専門技術者認定試験受験受付（8:45～）

受験申請者：318人 欠席：21人 受験者：297人

(2) 第13回磁気共鳴専門技術者認定試験

9:50～10:50 筆記試験（1）基礎物理，撮像技術，応用技術，読影技術

11:10～12:00 安全管理講習会（1）人体への影響 [内田]

13:00～13:50 安全管理講習会（2）MR装置の安全性とその対策 [清水]

14:10～15:10 筆記試験（2）保守管理，安全性，アーチファクト，解剖

(3) 更新のためのMR安全管理講習会（第13回MR専門技術者認定試験併会）

11:10～12:00 安全管理講習会（1）人体への影響 [内田]

13:00～13:50 安全管理講習会（2）MR装置の安全性とその対策 [清水]

14:00～14:40 安全管理講習会（3）条件付MR心臓ペースメーカの対応 [土橋]

14:45～15:20 安全管理講習会（4）MR専門技術者の役割 [土井]

更新講習受講者 事前申込：43人（欠席2人） 当日申込：6人

4. 第13回磁気共鳴専門技術者認定試験結果

(1) 書類審査結果

認定試験申請者 322人（初回 203人、再受験 129人 40%）

書類審査不備による再提出者 14人（10.85%）

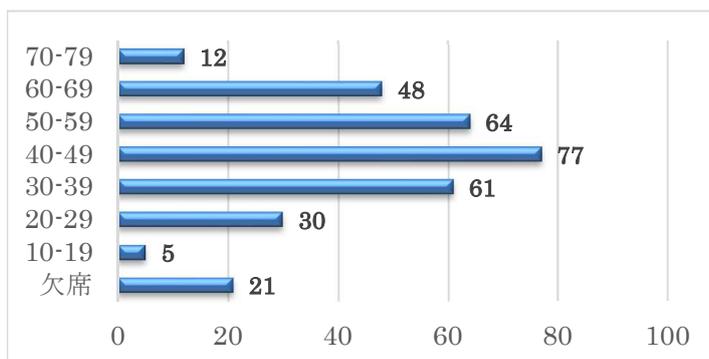
再提出後、不備がないことを確認し、申請者全員に受験資格を与えた。

(2) 認定試験採点結果

① 採点結果 [資料1]

受験者 297人の平均 一部：21.0点/50点 二部 25.2点/50点

すべての平均 46.2点/100点 60点以上：60人



② 試験問題の見直し

正答率 10%以下の問題が 3 題、内 2 題に解が不明確であり不適切問題とした。

③ 合格ラインの検討

④ 解答用紙の検証

⑥ 合格率低下の原因

・過去問を約 30%出しているが、まったく同じにならないように出題している。

5. 第 3 回・第 8 回認定者の更新申請

認定試験	更新対象者	申請者	上級	一般
第 3 回認定者	50 人 (上級 15 人)	46 人	11 人 (新規 1 人)	35 人
第 8 回認定者	54 人	51 人	2 人	49 人

(1) 第 3 回更新申請に e-learning の修了証が未同封 : 3 人 → 後日送付を確認

e-learning 申請者 第 3 回 : 23 人 第 8 回 : 7 人

(2) 2 名の追加申請があった

議事

1. 第 13 回磁気共鳴専門技術者認定試験結果

(1) 第 13 回磁気共鳴専門技術者認定試験の合格者の決定

97 人 (32.7%) を認定者として認定した (昨年の合格率は 42.5%)。

合格率について

- ・初回受験者 : 183 人 (61.6%) ・再受験者 : 114 人 (38.4%)
- ・初回受験者合格率 : $67 / 183 \text{ 人} = 36.6\%$ 再受験者合格率 : $30 / 114 \text{ 人} = 26.3\%$
- ・女性受験者 : 37 人 (12.46%) 女性受験者合格率 : 11 人 (29.7%)

(2) 欠席者 21 人の取扱い (事前連絡は 2 人)

事前連絡の有無は問わず、次回以降の受験は再受験扱いとする。

(3) 合格通知・不合格通知の記載内容の確認 [資料 3]

2. 磁気共鳴専門技術者認定者の更新

(1) 第 3 回認定試験合格者 2 度目の更新申請のあった 46 人の更新を承認する。

その内、上級磁気共鳴専門技術者 11 人を承認する。

(2) 第 8 回 MR 専門技術者認定者の更新申請のあった 51 人の更新を承認する。

その内、上級磁気共鳴専門技術者 2 人を承認する。

(3) 未申請者には申請締切り 10 日後にはがきにて更新の失念がないかを確認をした。

3. 会員管理システムの導入について [資料 4]

(1) 会員システム導入に関わる経費と本機構の収支状況

初期投資 : 約 450 万円 (3 機構参画なら 1 機構 150 万円)

運用経費 : 1 人 1 年 300 円 × 認定者約 1000 人 = 30 万円 / 年

5 年間の更新費用が 10,000 円とすると 15%が会員管理システム利用料となる。

(2) 利用を検討している機構

磁気共鳴、血管撮影 IVR、核医学の 3 機構、放射線治療は利用を検討中

(3) 導入に向けてのスケジュール

4 月末までに各機構から RacNe に持たせたい機能の要望を提出する。

5 月 27 日（日）：利用説明会（要望した機能が可能かを折衝する）

本機構としては第 14 回磁気共鳴専門技術者認定試験から利用したい。

(4) 搭載を希望する機能

① 認定試験の申請の受付（非会員の登録も可能にしなければならない）

・認定試験受験者は申請時点で非会員であるが、アカウントを取得して受験申請ができるようにする。経費は受験料に含むこととする。

→ 不合格であった場合も再受験時に利用することができる。

・受験費用などのクレジット決済。

・受付名簿の自動作成

・その都度の合格者名簿の作成と全磁気共鳴専門技術者の名簿の管理

② 更新時期の自動案内

③ 医療安全セミナーの自動受付

④ 領収書の自動発行ならびに費用振込の各自からの確認

⑤ 認定研究会の登録

4. 新医療への認定者の広報について

(1) 掲載に関する本人承諾の取得について

徽章の送付に合わせて、記載に関する「承諾」「不承諾」の返事をいただく。

送付時に記載に関する承諾用紙を同封し、e メールにて掲載に「承諾」する方から返事をいただくようにする（非通知の方が承諾しない場合のリスクを避けるため）。

雑誌には、「掲載に承諾された方のみを掲載しています」の一文を入れる。

(2) 第 13 回認定者に関して

徽章は認定書送付時に同封する。

雑誌（新医療）への氏名掲載に関して、申請書に回答欄を作成する。

ただし、ホームページへの掲載は必須とする。

5. 第 14 回磁気共鳴専門技術者認定試験について

(1) 会場：神戸大学を第 1 候補、大阪医科大学を第 2 候補として準備を進める

(2) 試験問題作成委員：関東地区のメンバーに依頼する

6. 第 11 回 MRI 医療安全セミナーの開催について

(1) 昨年とはほぼ同時期に首都大学東京で開催する。

(2) 内容は高橋理事に一任する。

(3) 企画内容について参加者からアンケートをとるようにする。

7. 学術研究申請について

- (1) 研究チームの募集は継続する。
- (2) 国際学会への渡航支援事業は一旦凍結する。

8. その他

(1) 認定研究会の審査基準

MRI を極めるにあたって MRI の知識だけではないことも考慮して、認定する研究会の企画内容ができるだけ 50%（少なくとも 25%を超える）になるようにしていただく。

(2) 徽章のロゴマークについて

ホームページのトップページにロゴマークを入れる。

会員にもダウンロードにてロゴマークが自由に使えるようにする。

ロゴマークの著作権は認定機構にあり、著作権上にも公にしておいた方がよい。

(3) 2018 年度第 1 回理事会の開催

6 月下旬から 7 月上旬の間に東京で開催する

役員は基本的に全員継続となる。

以上